

シクリスムエコーNo.78 2001年7月号

第4回全日本自転車競技選手権トラックレース…………… 2	トラック/ロード強化合宿…………… 9
2001年全日本選手権個人タイムトライアル・ロードレース・3	アジア選手権・アジアジュニア選手権 代表選手団 …… 9
2001年全日本自転車競技選手権ロードレース…………… 4	連載企画アンチ・ドーピングについて…………… 10
新委員長の抱負(1)…………… 6	UCIニュース…………… 11
平成13・14年度 専門委員会 委員名簿…………… 7	2001ロード・トラック・ランキング…………… 12
2001年UCIトラックワールドカップ第1戦…………… 8	2001年B世界選手権大会…………… 14
2001年UCIトラックワールドカップ第3戦 代表選手団・8	競技大会結果…………… 14



第4回全日本自転車競技選手権トラックレース

兼 第21回アジア自転車競技選手権 代表選手選考会



標記大会が6月2～3日の日程で岩手県紫波町の紫波自転車競技場で開催された。晴天であったが風が強かったため1kmタイムトライアルの大森の記録が更新にあと一步であった。また高校生の活躍が目立った大会であった。

女子500mタイムトライアル

太刀川麻也(茨城)と前回に引き続き中尾友美(奈良)の戦いと成ったが、太刀川が3連覇を達成し、敵なしの強さを見せつけた。

男子1kmタイム・トライアル



1kmTT優勝の大森

最終走者、大森慶一(北海道)のスタートに、皆かたずをのんで見守った。号砲とともに力強い脚力から一気にトップスピードに持っていきゴールまで持続させたが、自己記録には0.5秒及ばなかった。

男子ポイントレース

前回の覇者、飯島誠(ラバネロ)が前半好調に得点を獲得しながら残り36周目にて3名の落車に飯島規之(JPCA埼玉)と共に巻き込まれた。残り30周目は5名だけになり、残り6周では福島晋一(ブリヂストン)と吉井功治(日本舗道)が同点、ゴールにて10ポイント獲得した福島が優勝した。



団体追抜優勝の学連(法政大学)チーム

女子3km個人追抜競走

地元岩手県から杉村久美が優勝を目指す。対するは木村春恵(青森)となり、わずかの差で木村が逃げ勝った。

男子4km個人追抜競走

坂口博(愛知)が予選1位、決勝では黒木裕介(宮崎)にペースを落とすことなく2秒差で競り勝った。

オリンピックスプリント

決勝はJPCU佐賀の荒井・原・養原、対するは中国地区の福井・吉田・塩原。1周目でリードしたのがJPCU佐賀でそのまま2秒差でゴール、優勝となった。

女子ポイントレース

優勝した松永舞美(香川)は、高校生とは思えない走りを見せた。前半からポイントをかさね他の選手についていきゴールで確実に得点をゲットしていった。最終回では、地元杉村とせり勝ち2位と15得点差で優勝した。

女子スプリント



女子スプリント決勝の遠藤と太刀川(右)

昨年の覇者太刀川麻也(茨城)が2位の遠藤友子(大分)高校生を抑え、堂々の優勝を達成した。



男子ケイリン決勝のスタート

男子スプリント

今回は、前回まで出場した選手が出ていないため新人選手には、絶好の機会となった。優勝した布居寛幸(和歌山)の圧倒的強さで2位の永井清史(岐阜)高校生を抑え優勝をさらった。

男子4km団体追抜競走

決勝戦は、法政大学(三上・黒木・岡田・横山)とJPCU京都(窓場・久米・岩崎・山岸)との対戦。両者とも1kmは1分11秒台のペースだったが、後半風によってペースが落ちた。しかしながら法政大学は4分33秒114を出し勝った。

男子マディソン

前回優勝した坂口・楠本組は、今回は、吉井・福島組に周回遅れで2位に甘んじた。吉井・福島組はダントツの強さで2位と3周差にて優勝した。

男子ケイリン

予選2位の内林久徳(滋賀)が決勝進出したが思うようなレース展開と成らず3位に甘んじた。優勝したのは吉田康則(岡山)、ゴール手前、塩原正長(広島)を抑えてのガッポーズとなった。

(猿舘 貢)

KEIRIN 競輪補助事業

[競技結果]

男子1kmタイムトライアル

- 1 大森 慶一 北海道 ハーツストム 1:04.869
- 2 永井 清史 岐阜 岐阜第一高 1:09.141
- 3 篠原 忍 群馬 中央大学 1:09.191
- 4 岡本 大嗣 愛媛 アイッパ U 1:09.682

男子スプリント

- 1 布居 寛幸 JPCA JPCU和歌山
- 2 永井 清史 岐阜 岐阜第一高校
- 3 湯原 正行 長野 チームサイクルマインド
- 4 植木 和広 神奈川 中央大学
- 5 三宅 裕武 三重 サイクルクラブ FETAアックス

男子4km個人追抜

- 1 坂口 博 愛知 愛三工業 4:52.452
- 2 黒木 裕介 宮崎 法政大学 4:54.137
- 3 伊藤 太一 山梨 日本大学 5:01.989

男子ケイリン

- 1 吉田 康則 岡山 三菱化学物流
- 2 塩原 正長 広島 丹波乳業
- 3 内林 久徳 JPCA JPCU滋賀
- 4 松本 陽介 群馬 ハップレーシング
- 5 榎崎 雅也 宮崎 日本大学
- 6 石丸 健次 千葉 陸上自衛隊

男子40kmバンク・インレース

- 1 福島 晋一 JPCA プリザースト 39 p
- 2 吉井 功治 東京 日本舗道 29 p
- 3 狩野 智也 JPCA シノ 28 p
- 4 坂口 博 愛知 愛三工業 24 p
- 5 大塚 英伸 JPCA JPCU静岡 12 p
- 6 鬼形 博之 群馬 東北学院大 (-1) 2 p

男子マシソン

- 1 実業団E 吉井・福島 31p
- 2 愛知 坂口・楠本 (-3) 47p
- 3 実業団C 緒方・藤原 (-5) 21p
- 4 実業団B 高橋・坂本 (-5) 15p
- 5 実業団A 班目・矢内 (-6) 7p

男子バンク・タイムスプリント

- 1 JPCU九州 荒井・原・義原 1:04.397
- 2 中国 福井・吉田・塩原 1:06.308
- 3 愛媛 小池・岡本・大崎 1:07.022

男子4km団体追抜

- 1 学連/法政大学 三上・黒木・岡田・横山 4:33.114
- 2 JPCU京都 窓場・久米・岩崎・山岸 4:35.808
- 3 JPCU神奈川 遠澤・川越・梶山・畠山 4:35.224
- 4 広島 吉野・西谷・福本・吉井 4:35.735

女子500mタイムトライアル

- 1 太刀川麻也 茨城 M Project 38.208
- 2 中尾 友美 奈良 筑波大学 38.901
- 3 篠崎 新純 千葉 千葉経済高校 39.873

女子スプリント

- 1 太刀川麻也 茨城 M Project
- 2 遠藤 友子 大分 別府商業高校
- 3 中尾 友美 奈良 筑波大学
- 4 大森 恵 北海道 函館大谷高校

女子3km個人追抜

- 1 木村 春恵 青森 八戸大学 4:09.231
- 2 杉村 久美 岩手 中央病院 4:10.192
- 3 斎藤 綾 秋田 順天堂大学 4:10.726
- 4 中村 珠藻 奈良 順天堂大学 4:12.054

女子16kmバンク・インレース

- 1 松永 舞美 香川 高松工芸高校 30 p
- 2 杉村 久美 岩手 県立中央病院 15 p
- 3 森本 朱美 鳥取 若桜中学校・教 13 p
- 4 斎藤 綾 秋田 順天堂大学 11 p
- 5 藤原亜衣里 新潟 法政大学 8 p
- 6 中村 珠藻 奈良 順天堂大学 7 p

2001 年全日本選手権個人タイムトライアル・ロードレース

6月23日・24日の2日間、秋田県大瀧村「ソーラー・スポーツライン」を会場に、四つのカテゴリーで全日本のチャンピオンを争った。会場となった「ソーラー・スポーツライン」は総延長31km、一般公道とは全く交差しないスポーツ専用コースで、タイムトライアル・ロードレースには最適のコースである。

競技は快晴の中、2時30分、女子の部10名がスタート。前半から果敢に飛ばした杉村久美(岩手・中央病院)が3度目の優勝に輝いた。ジュニアの部は20kmの距離で争われ、高島 豪(埼玉・小松原高)が大会記録を更新する力走して優勝した。

大会二日目、U23の部はシード選手の力が接近していて熱戦が展開されたが、終始安定した走りで行った貴光(京都・立命館大)が優勝した。エリートの部は、大会直前に10名の欠場者がでて寂しい大会だった。阿部(JPCA・シマノ)と柿沼(栃木・キナン)が最後まで接戦だったが、往路の強い向い風を走り切り、柿沼が優勝した。

(秋田車連 鈴木正須)  競輪補助事業

[競技結果]

女子(15km)

- 1 杉村 久美 岩手 中央病院 22:54.530
- 2 木村 春恵 青森 八戸大学 23:40.448
- 3 松永 舞美 香川 高松工芸高 23:45.916



- 4 小野山恵美 愛媛 C・Sウエリ 23:57.653
- 5 谷村祐美子 奈良 北大和高 24:05.921
- 6 坂井田理沙 青森 八戸大学 24:34.321
- 7 横尾 裕子 山形 山形電波工 24:44.986
- 8 前川 康子 奈良 北大和高 25:07.887
- 9 小高セツコ 埼玉 26:15.806
- 10 舟橋 豊子 東京 岩崎通信機 27:10.861

男子ジュニア(20km)

- 1 高島 豪 埼玉 小松原高 27:26.763
- 2 池田 丈志 奈良 北大和高 27:31.365
- 3 別府 史之 神奈川 藤沢北高 27:50.625



- 4 親川 泰典 岩手 盛岡農商 28:23.910
- 5 大野 涼太 青森 八戸工高 28:30.440
- 6 土井 雪広 山形 山形電波工 28:31.523
- 7 糸賀 賢司 福島 平工業高 28:51.781
- 8 小林 彰夫 福島 東白川農商 28:55.524
- 9 今井 卓 埼玉 鳩山高校 29:00.297
- 10 小倉 知幸 福島 東白川農商 29:10.816

男子U23(31km)

- 1 辻 貴光 京都 立命館大 42:34.150
- 2 別府 匠 神奈川 日本舗道 43:10.163
- 3 山本 敬純 大阪 立命館大 43:58.315



- 4 佐藤 朋也 秋田 日本舗道 43:59.357
- 5 綾部 勇成 神奈川 日本舗道 44:29.383
- 6 清水 裕輔 埼玉 44:30.240
- 7 神馬 有貴 埼玉 44:31.455
- 8 出井 光一 千葉 青山学院大 44:58.963
- 9 向川 直樹 大阪 立命館大 45:28.239
- 10 宮崎 景涼 神奈川 アイッパ厚木 45:30.038

男子エリート(31km)

- 1 柿沼 章 栃木 村ノ丸 41:41.375
- 2 阿部 良之 JPCA シノ 42:00.189
- 3 橋川 健 JPCA プリザースト 42:00.516



- 4 三船 雅彦 JPCA 42:06.432
- 5 新保 光起 JPCA 42:12.194
- 6 山本 泰裕 大阪 シノ 42:16.944
- 7 長野 耕治 愛媛 長野建具店 42:55.894
- 8 鈴木 新史 JPCA 43:01.601
- 9 今西 尚志 京都 シノ 43:02.498
- 10 大内 薫 大阪 シノ 43:07.469

2001年全日本自転車競技選手権ロードレース



爽やかな緑の風そよぐ北の大地、北海道で、2001年全日本自転車競技選手権大会ロードレースは、本来の開催地であった静岡県車連のご理解と御協力により、初めて津軽海峡を渡り、支笏洞国立公園北湯沢温泉郷を持つ、北海道有珠郡大滝村で6月9日・10日の二日間にわたり開催された。

平成12年12月のJCF理事会にて、北海道車連悲願の全国大会の正式決定を頂いてからの本格準備となり、初開催の全日本大会で不向き届きも多々あったが、開催地の大滝村を始め北海道警察、伊達警察署、北海道、他関係諸団体の多大なる御協力と御支援を賜り、極めて短い準備期間での開催にこぎつけた事に対し、改めて感謝申し上げる次第である。

大会は、第4回全日本自転車競技選手権大会(男子エリート)、第70回全日本アマチュア自転車競技選手権大会(男子U23・女子)、第6回ジュニア全日本自転車選手権大会(男子ジュニア)、第48回全日本プロ選手権自転車大会(男子プロ)、そして6回目を迎える地元のチャレンジ・ツール・ド・北海道in大滝の6クラスが行われた

コースは大滝村大会実行委員会の協力で、村道と、この大会のために一部林道を急遽1kmに渡って舗装整備した、大滝村総合運動公園を起点とする、全長12.9km、標高差238mという、公道を走行する全日本に相応しいハードなコースとなっている。レイアウトは、平坦路がほとんど無く、スタートしてすぐ233m登りがあり、ヘアピンカーブ、高速下り、直角コーナー、新設された激

坂下り、コーナーを過ぎてスタートフィニッシュ地点を周回する、休む余地を許さないまさに全日本チャンピオン決定にふさわしいコースである。大会は村道全面規制とされた新緑のホ口ホ口山の麓を、役場職員総出の支援、JCF、北海道車連、役員総数142名体制にて、好天のなか二日間にわたり開催された。

第48回全日本プロ選手権ロード競技 (12.9km×7周=90.3km)

梅雨のない北海道ならではの初夏を思わせるような好天は、これから戦う選手達を大歓迎し、北の大地を存分に堪能させる絶好のコンディションである。

午前8時35分、大滝村・渡邊 寛村長の号砲により、全国8地域代表40名の戦いの火蓋は切って落とされた。スタートしてから4.5kmまで一気に233mを駆け登る起伏の激しいコースは、序盤から選手達を苦しめた。1周目ですでに隊列は長くなり、中井健二(中国)を先頭に8名の先頭集団が23分05秒で通過。

2周終了時に先頭集団は、南関東選抜の大塚英伸(静岡)、石井雅史(千葉)、小嶋雄大(神奈川)の3名に、関東選抜の飯島規之(福島)、飯田義広(東京)の2名と中国選抜の吉本哲郎(広島)の6名となり、スプリットタイムを22分43秒に上げて後続集団との差を徐々に広げていく。それに対し後続の集団からは周回を重ねるにつれ、一人二人と遅れていく。

4周目に入ると先頭集団は、飯島、大塚、石井の3名となった。この3名の戦いは、最終回に連続優勝を狙う飯島(全

日個人追抜5年連続チャンピオン)の満を期しての飛び出しに、大塚と石井は反応出来ず、2位に1分13秒差をつけての飯島規之の完勝であった。

第6回ジュニア全日本選手権 (12.9km×8周=103.2km)

午前8時30分、渡邊村長の号砲によりジュニアライダー51名のスタートが切られた。1周目に集団の中で2、3の落車があるが全員復帰。高校選抜から絶好調の別府史之(藤沢北)、土井雪広(山形電波)、親川泰典(盛岡農業)らを中心にラップを重ねる。

2周目には集団は小さなアタックを繰り返しながら、坂根太郷(北桑田)が23秒36のスプリットタイムで先頭通過。その後も柏原 剛(北稜)、別府が飛び出す、集団に吸収される。アタックと小さな揺さぶりに、集団は4周目には19名となる。その中には地元の天沼雅貴(尚志学園)が入っておりギャラリーの声援も一層熱が入り、選手には心強いプレゼントであろう。

補給の始まった5周目から19名の集団はまた数を減らし、糸賀賢司(平工業)を先頭に17名となる。

後半を迎えて戦いは激しさを増し、池田大志(北大和)、糸賀、小林彰夫(東白川農業)がアタック。最終回では、別府、土井、親川、池田の4人の争いとなる。

最後は、別府、土井のゴール勝負となるが、別府が僅差でレースを制した。期待の地元選手天沼は、完走者38名中最終回力尽き13位であった。

第70回全日本アマチュア選手権

U23(12.9km×11周=141.9km)

UCIアンダー23のカテゴリーに属する選手66名の精鋭達は、気温18、そよ風の絶好のコンディションの中で、12時30分スタートしていく。

足ならしの1周目は森 真博(立命館大)をトップに別府 匠(日鋪)の二人が22分47秒で通過、その後大集団。SFから4.5km地点までの厳しいコースが選手達を苦しめる。2周目は別府を先頭に綾部勇成(日鋪)、後藤正志(日大)、森が2分07秒とラップを縮めて来る。

3周目は河野通明(京産大)が22分48秒で先頭通過。4周目にして先頭集団は、小野栄一(日大)、後藤、佐藤朋也(日鋪)、真栄里誠(三州観光開発モナコ)

岩本竜太郎(京産大)、出井光一(青学大)、郡山善貴(愛三)、平井信昭(甲子園大)の8名となり、5周目もこの体制は変わらない。後続は36名の大集団であり、戦いはいよいよ後半へと移される。

6、7周回はラップタイム23分11秒、24分07秒で岩本がトップで通過。後続の19名の集団では小さなアタックが繰り返され、7周目には集団は17名となる。動きは激しさを増し、8周目は橋本健(Vitesse)が24分01秒で先頭通過、補給を受けてからの登りにかけて毎周回激しいトップ争いが続く。9周目は圓谷崇(日大)がリード、後続は虎視眈々と周りを牽制しつつ続く。

10周目に入り先頭は岩本、佐藤の2名。後藤、別府、大塚潤(東海大)、清水実(日大)、綾部、橋本の6名が続き、やや遅れて圓谷、平井となり最後の周回を迎える。

ゴールは大塚と佐藤のスプリント勝負となり僅差で大塚潤が4時間14分27秒で決着をつけた。完走者26名であった。

女子(12.9km×6周=77km)

夜半降った雨のせいか、前日の天気が羨まれる若干肌寒い中、23名の選手が8時35分にスタートする。

連覇を狙う北海道出身 沖美穂(チェプロ)に、森本朱美(鳥取)、中村珠藻(順天大)、マウンテンバイクXCで連勝を続ける南部博子(TREK)らがどのような絡みをみせるか。また大塚(坂)、栃木クラブ、木村春恵(八戸大)、村中恵美子(キヨミヤザワ)らもどこまでの走りをみせるかが見どころだ。

序盤、スタートからの激しい登りは案の定、選手達を苦しめた。集団は縦に長くなり、窪堀名恵(大阪)、山内聡子(京都)、谷村祐美子(北大和高)が遅れる。先頭集団は木村、中村、森本、南部、沖、村中らが先頭交替をしながら周回を重ねる。4周目には小高セツコ(埼玉)が遅れる。後半に入り、先頭集団は南部、沖、森本、中村の4名に絞られる。追うのは、西加奈子(ラバネロ)、村中の2人、続いて杉村久美(岩手)、斎藤綾(順天大)の2人で、あとはばらけて9名が続く。

最終周回までもつれ込んだ4名の戦いは、ゴール勝負となった。直線に入って南部は遅れ、3名の戦いは最後の最後、試合巧者の沖美穂が力を振り絞り、コンマの差で4連覇を果たした。完走者19名であった。

第4回全日本選手権ロードレース (12.9km×14周=180km)

午前8時30分、岩橋昭一JCF会長の号砲により、5時間に渡るチャンピオンレース、64名のスタートが切られた。

1周目、21分18秒のタイムに14人が遅れる。山下雅道(シマノ)、江下健太郎(愛三)、福島晋一(JPCAブリヂストン)が飛び出す。2周目は福島を先頭にスプリントタイム21分36秒で集団32名が通過。登りでのゆさぶりに耐え切れず、1人2人と集団が小さくなっていく。

3周目、山本泰裕(シマノ)を先頭に25名が21分09秒のタイムで通過。この苛酷なコースは選手達を最後まで苦しめた。4周目、最速20分59秒のタイム通過は田中光輝(愛三)の他、柿沼、行成、山本、福島の名。その後を19名が追う展開。前半戦はブリヂストン、シマノ、愛三、キナン等が交互に様子うかがいの戦いぶり。

試合は中盤戦となり、5周目は田代恭崇(JPCAブリヂストン)を先頭に、21分55秒で23名が通過。登りに入るとベテラン三浦恭資(JPCAキナン)が積極的に攻め、6周目を21分46秒で先頭通過、後続23名。7周目、北海道出身、新保光起(JPCA愛三)が22分13秒で18名通過。8周目、箕五郎(テスタッチ)が22分14秒、後続18名が通過。タイムアップの選手も出てくる。9周目、坂口博(愛三)が22分35秒、後続は小グループとなる。10周目、箕が2度目の先頭通過23分29秒、後続11名の集団となる。

戦いも後半を迎え熾烈さを増していく。ブリヂストンの作戦が、満を期して橋川健(JPCAブリヂストン)が単独飛び出しリードする。13周目先頭集団は、田代、田中、狩野智也(JPCAシマノ)の3名となる。最終ラップを迎え、フェイン



男子エリート優勝の田代

トを掛ける田中、狩野は蛇行をしながら走行。冷静に見つめる田代。激しいゴール勝負を制したのは田代恭崇、完走16名であった。(小野 盛秀)

[競技結果]

男子U17(180.6km)

1	田代 恭崇	JPCA ブリヂストン	5:12:33
2	田中 光輝	愛知 愛三工業	5:12:35
3	狩野 智也	JPCA シマノ	5:12:40
4	鈴木 真理	JPCA シマノ	5:14:12
5	橋川 健	JPCA ブリヂストン	5:14:13
6	岡崎 和也	JPCA	5:14:19
7	福島 晋一	JPCA ブリヂストン	5:15:49
8	三浦 恭資	JPCA	5:16:03
9	鈴木 新史	JPCA	5:16:04
10	新保 光起	JPCA	5:16:04

U23(141.9km)

1	大塚 潤	静岡 東海大学	4:14:27
2	佐藤 朋也	秋田 日本舗道	4:14:28
3	後藤 正志	岐阜 日本大学	4:14:31
4	別府 匠	神奈川 日本舗道	4:14:31
5	岩本竜太郎	広島 京都産業大	4:14:32
6	清水 実	山梨 日本大学	4:15:00
7	綾部 勇成	神奈川 日本舗道	4:16:46
8	橋本 健	東京 Vitesse	4:16:48
9	圓谷 崇	福島 日本大学	4:18:15
10	平井 信昭	兵庫 甲子園大学	4:18:24

男子ジュニア(103.2km)

1	別府 史之	神奈川 藤沢北高校	3:09:35
2	土井 雪広	山形 山形電波工	3:09:36
3	親川 泰典	岩手 盛岡農業高	3:09:46
4	小林 彰夫	福島 東白川農商	3:10:47
5	池田 丈志	奈良 北大和高校	3:10:54
6	糸賀 賢司	福島 平工業高校	3:11:13
7	中村 誠	石川 カリアズサイクル	3:11:33
8	小椋 康寛	岐阜 岐阜第一高	3:12:25
9	三瀧 光誠	山形 村山農業高	3:13:47
10	松下 善紀	広島 国際学院高	3:13:52

女子(77.4km)

1	沖 美穂	山梨 チェプロ	2:31:10
2	森本 朱美	鳥取 若桜中学・教	2:31:10
3	中村 珠藻	奈良 順天堂大学	2:31:10
4	南部 博子	長野 トリツギジャパン	2:31:13
5	大塚 歩	栃木 栃木クラブ	2:33:57
6	木村 春恵	青森 八戸大学	2:35:47
7	西 加奈子	千葉 スズパル 和 P.	2:40:27
8	村中恵美子	東京 村中ミヤザワ	2:40:32
9	杉村 久美	岩手 中央病院	2:40:47
10	斎藤 綾	秋田 順天堂大学	2:40:50

全プロ(90.3km)

1	飯島 規之	福 島	2:52:41
2	大塚 英伸	静 岡	2:53:54
3	石井 雅史	千 葉	2:53:55
4	小嶋 雄太	神奈川	2:57:10
5	飯田 義広	東 京	2:57:17
6	吉本 哲郎	広 島	3:01:34
7	樺澤 康輝	東 京	3:02:13
8	白木 正彦	宮 城	3:02:31
9	中井 健二	岡 山	3:02:49
10	矢部 和彦	三 重	3:04:54

新委員長の抱負(1)

競技運営委員会の諸問題

競技運営委員長 岡田 行雄

試行錯誤を繰り返しながら4年間が過ぎ、競技連盟のために一歩でも前進出来たのかを考えている昨今です。今回、競技委員会と技術委員会が合同し競技運営委員会として新たに出発することになり、その委員長を拝命しました。従前と変わりなく、少しでも前進出来るよう努力したいと思っています。選手及び関係の皆様のお言をお願ひ致します。新委員会の業務内容は従来と殆ど変わりません。競技運営に必要な事案を様々な角度から点検し、多方面の方々の協力を得てスムーズな大会運営が実現したらと考えています。

今年、2001年度版競技規則を発行し、競技カレンダーの前半を終了しました。来年度カレンダー作成の素案作りを8月には始めたいと思っていますが、役員改正に伴って委員会の発足がおくれ、業務全体が遅れていることは否めません。現在、委員会の問題としては登録制度、ランキング・ポイント制度の改正及び記録測定機器の開発が有ります。登録制度は暦年制・年度制、国内・国際ライセンス、発行期間の短縮等の解決、ランキング・ポイント制度は対象種目の検討、選手の実力との適応度合等の解決が問題となります。記録測定機器は、地区大会で電子計時が出来よう簡易な機器を開発し配置を目指しています。その他、大会要項については、全国都道府県対抗で少年・成年の区分を部分的に導入しました。4年後のアテネ・オリンピックを見据えての大会構築は強化委員会との合同作業となりますが、02年度には段階を発表出来るよう努力したいと考えています。1級審判講習は昨年度と同様に実技(全国都道府県対抗・高知)と講習・試験を実施します。来年度以降については検討をしたいと思っています。国体改革については、日体協との関係があり前進していません。まず女子登録選手の増加を関係各位の協力を得て実現し、男子種目増等の大会要項の見直しを含めて、皆様の協力によって実現したいと思っています。

世界への掛け橋としての国際委員会

国際委員長 穴田 勝彦

今年からプレーの場をメジャーリーグに移したイチローは、我々の予想を越えた活躍を見せ、海の向こうでも首位打者争いを繰り広げている。一足早くイタリアのセリエAに挑戦した中田英寿は、所属するASローマの優勝に貢献、地元ファンの喝采を浴びた。我々は、日本が生んだスーパースターの活躍に一喜一憂するとともに、本場のプレーの迫力、醍醐味に魅了され、競技そのものへの関心を新たにします。

翻って我が自転車競技を考えてみると、今年はワールドカップ第1戦・コロンビアに選手団を派遣したが、その結果を伝えるマスメディアが少なかつたことは残念なことである。自転車競技の人気を高めるためには、海外での日本人選手の華々しい活躍がマスメディアに広く取り上げられることが近道であり、世界と互角に渡り合える実力を備えた選手を育成することが急務であると考えます。

日本人選手が海外で活躍するには、自転車競技に係わる国際的情報に精通していることが必要条件であるが、そのような国際的な環境を選手、指導者に提供することが我々国際委員会に課せられた使命である。国際的な自転車競技は現在、UCIを頂点とした組織で運営されているが、UCI理事会における決定事項およびUCI規則の改訂については、逐次その意図を充分汲み取った上で日本語に翻訳し、広く選手、指導者および関係各方面に理解、啓蒙を図っていく。また、UCIはじめ各国競技連盟とも連携を密にしながら情報を交換し、自転車競技を取り巻く国際的な潮流に我が国が乗り遅れることのないよう万全を尽くしたい。

世界のトラック競技で活躍する選手が登場することは、我が国の自転車競技を活性化させるだけでなく、なかなか打開策が見出せない競輪事業にも有効なカンフル剤となることが期待される。国際委員会は世界と日本は言うに及ばず、明るい未来と自転車競技をつなぐ掛け橋としての役割を果たしていきたい。

広報委員会の運営

広報委員長 村田 統司

連盟の委員会の分掌事項が少し変わり、同時に担当替えもあって、「シクリズムエコー」とともに新たに「広報委員会」に異動しました。

自転車競技と自転車競技に関連する様々な事業を広報するのが今度の委員会の原則的な役割であると理解しており、その広報は、新聞、雑誌、TV等のマスコミを通じるか、あるいは機関誌、ホームページ等の自らの伝達手段を使って行うのが一般的だと思っています。

しかし、ある面で「広報」の守備範囲が大変に幅広いものであるとの認識もあります。

例えば、前任の委員会が力を傾注していた「観て楽しい」自転車競技にするための映像システムや計時システム等の開発を進め、より多くの人達に楽しく、分りやすく自転車競技を観戦して貰う機会を創出するよう努める作業も極めて大切だと思います。従って、この事業を継承して行くことは当然ではありますが、これには予算上の問題もあって、どこまで期待に応えられるかと案じています。

そこで、当面の広報手段としては、従来からある連盟の「ホームページ」(<http://www.jcf.or.jp/>)の充実に力を注ぎ、エコーとも関連を持たせて連盟からの発信をカバーしたいと考えています。勿論、マスコミを通じた広報活動も大切だと思いますので、それなりの努力はしたいと考えています。

各委員会とも密接な連絡を取り合って、何時、何を、何処に発信すべきなのかを常に正しく把握し、広報活動を続けたいと念じておりますので、もし、お気付きの事項がございましたら、どしどしご指摘ください。

皆様方の、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

自転車競技、指導者の普及啓蒙 普及委員長 増田 亨

昨年はシドニーオリンピックにおいて、我が国で誕生したケイリンが採用され、活躍が期待されたが残念な結果に終わった。しかし、トラック短距離部門で3人チームのオリンピックスプリントを含む4種目4人がフル出場でき、アトランタオリンピックから一歩前進した意義は次の2004年アテネオリンピックに大きな期待が持て、今後のナショナルチーム作り、強化にも一層積極的な展開が期待される。これは自転車競技を愛好する者の期待を一身に集めることとなるであろう。また、2008年のオリンピック出場を目指す次世代の自転車競技者への大きなインパクトを与えることだろう。

一方、そのチームを支えた強化委員、強化コーチを始めとするスタッフの方々に昨年までの経験を活かし、科学的なトレーニング計画等技術的な面でもより充実したサポートを期待するとともに、ナショナルチームの選手の皆さ

んの更なる飛躍を期待したい。このことが自転車競技の普及につながる一番の近道ではないだろうか。

世界の自転車競技の普及について目を向けると、UCIは、1999年の総会でヨーロッパ以外の国々の自転車競技の普及強化を図るため、世界トレーニングセンター(WCC)をスイスに設立し、2004年のオリンピックに向けて2002年から選手、コーチ等の養成、強化訓練を実施する計画を決定した。また、翌2000年の総会では、世界5大陸、8の地域にWCCのサブセンターを設置することになった。アジア地域では日本がWCCのサブセンターとして設置に協力することとなり、これは画期的なこととして、JOC始め他スポーツ連盟からも注目されているところである。

JCFでは、日本サイクルスポーツセンターと協力して、修善寺にこれを2002年4月から開設すべくその準備を始めている。これは、アジア自転車連盟に所属

する国々、並びに我が国の自転車競技の普及、養成等のトレーニングセンターとして位置づけ、特に国内の自転車競技、自転車の生涯スポーツ等の普及活動が展開されることが期待される。

このことは、昨年文部科学省が「我が国の国際競技力の総合的な向上方策」の提言の中に、学校や地域スポーツクラブなど一貫した指導システムの体制、トレーニング拠点の整備等(10年計画のようだが...)に盛り込まれていることは、既に皆様ご承知のとおりである。他スポーツに自転車競技が先行した形になるが、各関係機関の協力を得ながら数年を経てより充実されたセンターになることを願っている。

我々普及委員会では、これらの状況を踏まえた自転車競技の普及、拡大及びこれら競技者に養成、指導する者の意識の向上等、多角的な面から底辺の拡大はもとより、その育成に努力していく考えである。

平成13・14年度 専門委員会 委員名簿

委員会名	委員長	副委員長	委員						
総務委員会	鈴木 久雄	高橋 耕作	狩野 哲男	亀田 博文	南 昌宏				
選手強化委員会	藤本 清孝	大島 研一	中原 曙観	班目 秀雄	高橋 松吉	福田 公生	山崎 好弘	中野 浩一	形本 静夫
競技運営委員会	岡田 行雄	山口 清孝	林 辰夫	遠藤 光仁	竹沢 義忠	松倉 信裕	横田 恭		
広報委員会	村田 統司	中西 泰三	佐藤 米治	鈴木 賢三	村田 隆宣	吉田八栄子			
普及委員会	増田 亨	蒲 省治	加藤 昭	板鼻 昭	村田 隆宣				
国際委員会	穴田 勝彦	久和 正孝	柴野 邦彦	萩原 重一	鈴木 久雄				
アドバイザー委員会	鈴木 孝幸	林 勝	青木純一郎	新津谷真人	坂本 陽一				

SHIMANO®

ペダリングセクション重視



株式会社シマノ 〒590-8577 堺市老松町3丁77番地 「お客様相談窓口」電話 0722-43-2829
 当社の自転車部門の製品カタログご希望の方は、「カタログ希望」と明記し、300円切手同封の上、
 〒590-0944堺市柳屋町東1-1-1「シマノクラブPRセンター」宛にご郵送下さい。
 シマノ自転車製品は、インターネットホームページ「http://cycle.shimano.co.jp」でもご覧になれます。

乗車したまま走りきるコースレイアウトがマウンテンバイクレースの世界的な流れになっています。そこで、シマノはよりペダリングを重視したSPDシューズをリリースしました。

高強度カーボンソール搭載
軽量シューズ

SH-M220

¥17,800

標準小売価格(税別)



泥づまりしにくい
シリーズ最軽量ペダル

PD-M858

¥12,600

標準小売価格(税別)



2001年 UCIトラックワールドカップ 第1戦 カリ



オリンピックスプリントのスタート

5月25日から27日の3日間、コロンビアのカリに於てワールドカップ第1戦が25カ国・141名の参加で行われた。

競技結果は下記の通り。なお日本は、ケイリンで6点、1kmTTで5点、オリンピックスプリントで5点のポイントを獲得した。

[競技結果] (日本参加種目のみ)

男子スプリント

- | | | |
|---|-------------------------|-------------|
| 1 | Gane Laurent | FRA |
| 2 | John Matthias | GER |
| 3 | Villanueva Jose Antonio | ESP |
| | 伊勢崎彰大 | JPN 1/16F敗退 |
| | 佐野 梅一 | JPN 予選敗退 |

男子1kmタイムトライアル

- | | | | |
|---|-------------------|-----|----------|
| 1 | Hoy Chris | GBR | 1:02.499 |
| 2 | Hhuet Herve | FRA | 1:02.501 |
| 3 | Bergemann Carsten | GER | 1:03.612 |
| 6 | 荒井 崇博 | JPN | 1:04.754 |

男子ホリヒックスプリント

- | | | |
|---|----------------|--------|
| 1 | ドイツチーム | 45.470 |
| 2 | フランスチーム | 45.580 |
| 3 | イタリアチーム | 45.673 |
| 6 | 日本チーム 濱田・長塚・荒井 | 45.883 |

男子ケイリン

- | | | |
|---|----------------------|-----|
| 1 | Gane Laurent | FRA |
| 2 | Fiedler Jens | GER |
| 3 | Vasilopoulos Lampros | GRE |
| 5 | 伊勢崎彰大 | JPN |



KEIRIN 競輪補助事業

2001年 UCIトラックワールドカップ 第3戦代表選手団

大会名	2001年 UCIトラックワールドカップ 第3戦イタリア大会		
開催期間	2001.6.29 ~ 7.1		
開催場所	イタリア・ホルテ・ノーレ(屋外・コンクリート張り・400m・最大斜度34度)		
派遣期間	2001.6.26 ~ 7.3		
派遣選手団			
監督	班目 秀雄(連盟強化コーチ)		
メカニック	藤原富美男(連盟強化スタッフ)		
マッジャラー	石田 宗男(連盟強化スタッフ)		
総務	木内 浩成(連盟強化部)		
選手	山田 裕仁(JPCA・岐阜)・高城 信雄(JPCA・兵庫)		
	長塚 智広(JPCA・茨城)・濱田 浩司(JPCA・愛媛)		
	大森 慶一(北海道)		

速報!!
山田裕仁ケイリン2位
詳しくは次号を

TITANIUM Technology

より高度な剛性バランスを追求して、Tiコブラシェイプ、さらに進化。

比重は鉄の約1/2、強度もアルミ・鉄を圧倒し、弾性にも優れるチタン。この理想の素材特性をフルに活かして開発したのが、Tiコブラシェイプだ。ヘッド側を縦楕円に、BB側を横楕円に形成。さらにティアドロップ断面とトリプルバテッド加工を採用することで、軽さ・衝撃吸収性・高剛性を徹底追求した。そして今シーズンは、ヘッド回りの剛性を高める“ゼロスタック”ヘッドシステムを採用。縦横の剛性をいっそう高次元でバランスさせ、よりニアな操縦性を実現した。



<http://www.panabyc.co.jp>

パナソニック・オーダーシステムカタログをご希望の方は、200円切手を同封の上、下記まで
松下電器産業株式会社 自転車事業部 〒582-8501 大阪府柏原市片山町13-13 TEL.0729-77-1601

Panasonic

TiCOBRASHAPE
TITANIUM SUPER CROSS OVAL
TRIPLE BUTTED DOWN TUBE



OCT 06 7.9 kg 写真の商品はOCT 06 D (DURA-ACE)です。

WEIGHT OCT 06D 530SIZE チューブフレーム、ノーマルホイール仕様

355,000円〜(税別)

※パーツ・カラー選択により価格は異なります。フレーム単体販売

FCT 06

基本標準価格(税別) 170,000円〜

WEIGHT 1.9kg (フレーム・フォーク・ヘッド/サイズ530サイズ)



トラック/ロード 強化合宿

トラック

第21回アジア自転車競技選手権・第8回アジアジュニア自転車競技選手権に備えたトラック強化合宿が、6月28日から7月1日までグリーンドーム前橋で行われた。今回はゲリー・ウエスト氏（JCF契約コーチ・オーストラリア）が来日し、4日間、エリート男子7名、同女子1名、ジュニア男子7名、同女子3名の計18名の選手を熱心にコーチした。

特に今回は4日間という短い期間に沢山のことをやらねばならないので、まず「時間厳守を3回破った者は帰ってもらう」と冒頭から厳しい宣言

がゲリーコーチから告げられた。

合宿では短・中距離それぞれのトレーニングメニューが渡され、パワーとキャパシティートレーニングを組み合わせたメニューを連日精力



的にこなして行った。

ウォームアップのメニューも48×16もしくは46×15の低レシオを使用して細かい指示がなされており、参加した選手には、非常に斬新なものに映ったようだった。本大会での成果が待たれるところだ。（連盟強化部 今井 弘明）

KEIRIN
競輪補助事業

ロード

アジア選手権・アジアジュニア選手権のためのロード強化合宿が千葉県鴨川市を拠点として、6月28日から7月5日までの8日間開催された。トレーニングは「エリート男子」と

「エリート女子+ジュニア男子」の2グループに分かれ、長距離練習とバイクペーサーを中心に行われた。



第21回アジア自転車競技選手権及び第8回アジアジュニア自転車競技選手権 代表選手団

開催期間 トラック:2001.7.7~11 ロード:2001.7.14~16

開催場所 トラック:台湾・台中縣自転車競技場(屋外・板張り・333m・最大斜度37度) ロード:台湾・高雄周辺ロードコース

派遣期間 トラック:2001.7.4~12 ロード:2001.7.11~17

派遣選手団

団長 藤本 清孝(連盟強化委員長)

監督 班目 秀雄(連盟強化コーチ)

ヘッドコーチ ゲリー・ウエスト(連盟契約コーチ)

コーチ <トラック> 福田 公生(連盟強化コーチ) <ロード> 高橋 松吉(連盟強化コーチ) <ジュニア> 山崎 好弘(連盟強化委員)

メカニック 藤原富美男(連盟強化スタッフ) 鬼原 積(連盟強化スタッフ)

マッサージャー 柳 浩史(連盟強化スタッフ) 石田 宗男(連盟強化スタッフ)

通訳 増田恵美子(ドイツ) マット)

総務 板鼻 昭(連盟特命参事) 名畑 陽二(連盟強化部) 斎藤晃一(連盟強化部)

選手 <男子エリートトラック> 窓場加乃敏(JPCA) 飯島 規之(JPCA) 内林 久徳(JPCA) 布居 寛幸(JPCA)
伏見 俊昭(JPCA) 金子 貴志(JPCA) 諸橋 愛(JPCA) 飯島 誠(JPCA)
坂口 博(愛知) 福島 晋一(JPCA) 黒木 裕介(宮崎) 大森 慶一(北海道)

<男子エリートロード> 渋谷 淳一(JPCA) 田中 光輝(愛知) 狩野 智也(JPCA) 鈴木 真理(JPCA)

<女子エリートトラック> 太刀川麻也(茨城)

<女子エリートロード> 沖 美穂(山梨) 森本 朱美(鳥取) 中村 珠藻(奈良)

<男子ジュニアトラック> 永井 清史(岐阜) 石橋慎太郎(静岡) 井上 雄三(埼玉) 白井 昌臣(岐阜)
明珍 修平(福島) 高島 豪(埼玉) 池田 丈志(奈良)

<男子ジュニアロード> 別府 史之(神奈川) 土井 雪広(山形) 親川 泰典(岩手)

<女子ジュニアトラック&ロード> 遠藤 友子(大分) 松永 舞美(香川) 谷村祐美子(奈良)

連載企画 第21回

アンチ・ド - ピングについて

ド - ピング検査の現場から(2) - 指導者研修会アンケート調査結果 -

自転車競技指導者研修会が平成13年3月に開催され、40名の参加があった。この際、参加者を対象にして、アンチ・ド - ピングに関係するアンケートを実施し、競技規則の理解度や倫理観、薬の知識について調査を行った。同様の調査は、平成11年の指導者研修会でも実施しているので、この2回の調査結果を比較しながら、その結果を報告する。すでに今年も多くでの大会でド - ピング検査が実施されているが、現場での混乱を避けるためにも関係者の正確な理解を期待したい。

1 競技規則の理解度

ド - ピング検査に関係する主な競技規則とその正解率を表1に示します。参加者全体でみると、平成11年に実施した調査よりも正解率が8%ほど上がり、調査した全ての競技規則に正解した参加者も前回の0人から3人になっていました。しかし、依然として正解率の悪い規則もあり、「競技規則の理解不足」が「選手の陽性」という結果に結び付く可能性が高いことから、関係者全員が100%正解できる様にしていきたいと思えます。

1 検査室への出頭が遅れると陽性となる

今回の調査で正解率が一番低かった競技規則です。この規則は、平成11年のアンケート調査でも一番正解率が低く、関係者に良く理解していただかなければならない規則です。

UCI規則では、選手は競技終了後30分以内にド - ピング検査室に出頭することが義務づけられています。遅刻した場合には陽性と判断されます。競技終了後に表彰式が行われる場合には、表彰式の終了後30分以内に検査室に行く必要があります。また、続けて他の競技にも出場する場合には、「次の競技があるので、ド - ピング検査をすぐに受けることができない」ということを、ド - ピング検査室に報告に行く必要があります。ま

た、雑誌や新聞などのインタビュー - は、表彰式には含まれませんから、インタビュー - を遅刻の理由にすることはできませんので注意して下さい。

2 表彰式を薬物検査より優先する

今回、2番目に正解率の悪かった競技規則で、これは平成11年の調査でも同様でした。ド - ピング検査に関係する規則は、即処罰に結び付く内容が多いのは事実です。このため、表彰式とド - ピング検査を比較した場合に、ド - ピング検査を優先した方が良いと考える人が多いのかもしれない。しかし、大会運営を考えた場合には、上位に入賞した選手がいない状況ではとても表彰式は成立しません。ましてや、ド - ピング検査終了までの制限時間が無いことから、もし表彰式をド - ピング検査の後に行うのであれば、いつ開催できるのかまったく予測がつかないことになってしまいます。

この2つの競技規則は、正解率が低い上に、ド - ピング検査が実施された大会において混乱の原因になっていた様にも思えますので、充分理解していただく必要があります。

2 アンチ・ド - ピングの目的の理解度

ド - ピングを規制し、禁止する理由は大まか4つあるとされています。

- 1)不正に使用した薬の副作用による健康障害が、選手に生じないようにする。
- 2)競技の公平性を維持する(ド - ピングはフェアプレ - の精神に反する)。
- 3)スポ - ツ界における薬物乱用が、一般社会での薬物乱用を助長することがないようにする(一般社会への悪影響の防止)。
- 4)一流スポ - ツ選手は青少年のあこがれの対象になりますが、その選手達が薬物を不正に使用していたこ

新津谷 真人 ニイツマ マサト

昭和60年 北里大学医学部卒業
循環器内科研修生を経て平成7年より現職の北里大学医学部、衛生学・公衆衛生学講師
(財)日本体育協会・スポーツドクター
(財)日本自転車競技連盟・アンチド - ピング委員

坂本 陽一 サカモト ヨウイチ

東北学院大学
英語英文学研究所・キリスト教文化研究所 勤務
(財)日本自転車競技連盟・アンチド - ピング委員

とが分かれば、スポ - ツのイメージを悪くしてしまいます。

今回の調査結果は表2に示すとおりで、上記1.副作用による健康障害の防止と、2.競技の公平性に関しても約半数程度の理解しか得られませんでした。参加者にアンチ・ド - ピングの目的を列挙させたため、回答者の数が少なくなった可能性があります。しかし、今回の調査の対象は競技指導者であることから、アンチ・ド - ピングの目的を正確に理解した上で、選手に関わっていただきたいと思えます。特に、選手の薬物使用を容認する指導者は、アンチ・ド - ピングの目的をほとんど回答することができませんでした。関係者のさらなる認識・理解の向上が必要かと思えます。

表1 競技規則の理解度

競技規則	正解率	
	H13	H11
知らずに薬を飲んでも陽性になる	97.4	85.0
薬物検査室への出頭には時間制限がある	94.7	86.7
途中棄権した選手も検査対象になる	94.7	78.4
競技出場前に使用薬物を申告する	92.1	75.0
検査対象選手の確認は選手自身が行う	86.8	88.3
指導者の禁止薬物所持は処罰される	86.8	80.0
ド - ピングに関わった指導者は処罰される	84.2	88.3
出頭した後検査終了までに時間制限はない	73.7	58.4
薬物検査室からの途中退室は陽性となる	60.5	60.0
出頭までの制限時間は30分である	60.5	52.0
薬物検査を拒否した場合は陽性とみなす	44.7	51.7
表彰式を薬物検査より優先する	42.1	26.7
薬物検査室への出頭が遅れると陽性となる	41.7	23.3
平均	73.8	65.7

単位:%

表2 アンチ・ド - ピングの目的の理解

項目	回答率	
	H13	H11
1 副作用による健康障害の防止	57.9	53.3
2 競技の公平性	50.0	28.3
3 社会への影響	2.6	3.3
4 スポ - ツのイメージ	2.6	5.0

単位:%



尿中のEPO検出検査を4月1日より施行

2001年4月1日からUCIは、外因性の薬物として投与したEPOを検出するための、アンチドーピング検査を実施し始めた。この新テストは分析能力に限界があるので、最初の内は重要なレースのうちのいくつかにおいて実施する。また、血液検査においては従来測定されていたヘマトクリット値とヘモグロビンのレベルだけでなく、網状赤血球(レティキュロサイト)数も考慮されることとなった。

ロード用車輪破壊検査

2002年1月1日から集団スタート・ロード・レースにおいては、UCIに事前承認された形式の車輪のみが使用できる。この事前承認には破壊検査が義務付けられる。

UCI国際マウンテンバイク・コミセール・コースの実施

UCIはマウンテンバイク種目のUCI国際コミセール候補生の課程と試験を行う。

場所: オーストリア、カプラン

日程: 2001年9月24日～29日

最多参加者数: 30名

言語: 英語

参加資格として、試験の年に25歳以上45歳未満でなければならず、また、

- 国内レースにおける審判の経験が多いこと
- UCI公式言語2つのうち、1つの知識

受講には、JCFの推薦が必要です。推薦対象となるには、2級以上の審判資格が必要です。希望者は所属の都道府県自転車競技連盟に問い合わせを。

アンチドーピング検査規則(AER)の全面改訂

新しいUCIアンチドーピング検査規則は、2001年7月1日から発効する。この規則の全文はUCIのウェブサイトからダウンロードできる。日本語版は現在翻訳作業中。

ヘルメットの新規公認

2001年度に新規公認、公認更新となったヘルメットは以下のとおり。2000年以前公認/製造/出荷されたヘルメットもJCF公認証紙が貼付されていれば使用できる。

公認番号	公認日付	公認申請社*	製造社	形式名	公認条件
3-139	2001/4/5(更新)	(株)エフイーティー	ジロ	ヒーラ(GILA)	バイザーはマウンテンバイク・クロスカントリー、シクロクロスにおいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
3-169	2001/4/5(更新)	(株)エフイーティー	ジロ	イーツ-(E2)	
3-170	2001/4/5(更新)	(株)エフイーティー	ジロ	エクリプス(ECLIPSE)	
3-171	2001/4/5(更新)	(株)エフイーティー	ジロ	モハービ(MOJAVE)	バイザーはマウンテンバイク・クロスカントリー、シクロクロスにおいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
3-180	2001/4/5(新規)	(株)エフイーティー	ジロ	トランジット(Transit)	
3-188	2001/5/2(新規)	(株)エフイーティー	ジロ	ハボック(HAVOC)	
3-189	2001/5/2(新規)	(株)エフイーティー	ジロ	ニューモ(PNEUMO)	
15-173	2001/4/5(更新)	(株)カレラジャパン	CARRERA OPTYL	DRAGON FLY #7903	外シェルを付加しての使用はJCFの公認外とする。その旨の注意書を同梱すること。
20-166	2001/4/5(更新)	(株)深谷産業	SELEV S.A.S.	ALIEN	
20-179	2001/4/5(新規)	(株)深谷産業	SELEV S.A.S.	ATOM	
25-70	2001/6/27(更新)	(株)キャットアイ	PROHOTON	PUヘルメット・H101	
26-164	2001/4/17(更新)	三井物産スポーツ(株)	BRIKO	PAMPERO	
27-177	2001/3/28(新規)	(株)インターテック	BELL	PHI PRO	
27-178	2001/3/28(新規)	(株)インターテック	BELL	PARADOX PRO	バイザーはマウンテンバイク・クロスカントリー、シクロクロスにおいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
33-142	2001/4/17(更新)	(株)インター マックス	MET SPA	ファイアボール(FireBall)	
33-153	2001/4/17(更新)	(株)インター マックス	MET SPA	パラベリウム(Parabellum)	バイザーはマウンテンバイク・クロスカントリー、シクロクロスにおいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
33-158	2001/4/17(更新)	(株)インター マックス	MET SPA	アナクサゴレ(Anaxagore)	バイザーはマウンテンバイク・クロスカントリー、シクロクロスにおいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
33-167	2001/4/17(更新)	(株)インター マックス	MET SPA	ストラディバリウス(Stradivarius)	
33-183	2001/4/17(新規)	(株)インター マックス	MET SPA	イゴグリフォ(Ippogrifo)	
33-184	2001/4/17(新規)	(株)インター マックス	MET SPA	ロードランナー(RoadRunner)	
41-181	2001/4/17(新規)	(株)エーヴィーエックス	CAMAU SYSTEM	R3100 Sierra nevada	バイザーはマウンテンバイク・クロスカントリー、シクロクロスにおいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
41-182	2001/4/17(新規)	(株)エーヴィーエックス	CAMAU SYSTEM	R3000 Genius	
41-186	2001/4/27(新規)	(株)エーヴィーエックス	CAMAU SYSTEM	R3200 Gold	バイザーはマウンテンバイク・クロスカントリー、シクロクロスにおいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
41-187	2001/4/27(新規)	(株)エーヴィーエックス	CAMAU SYSTEM	R3300 Frizz	バイザーはマウンテンバイク・クロスカントリー、シクロクロスにおいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
42-174	2001/3/5(新規)	ダイナソア(株)	RUDY PROJECT	T-REX	
42-175	2001/3/5(新規)	ダイナソア(株)	RUDY PROJECT	FREEZER	
42-176	2001/3/5(新規)	ダイナソア(株)	RUDY PROJECT	RAPTOR	
43-185	2001/4/18(新規)	バイクシステム	LAS d'Roberto Ghilardi	クリプトン(Kripton)	

公認申請社	電話番号	住所	電話番号
(株)エフイーティー	157-0071	東京都世田谷区千歳台4-30-11	03-5490-2563
(株)カレラジャパン	110-0015	東京都台東区東上野2-18-5 シチズン商事ビル3F	03-5818-0871
(株)深谷産業	460-0015	愛知県名古屋市中区大井町1-38	052-321-6571
(株)キャットアイ	546-0041	大阪府大阪市東住吉区桑津2-8-25	06-6719-7781
三井物産スポーツ(株)	102-0075	東京都千代田区三番町28 秀和三番町ビル5F	03-5275-8421
(株)インターテック	168-0065	東京都杉並区浜田山4-10-3	03-5377-1441
(株)インター マックス	400-0074	山梨県甲府市千塚5-10-9	055-252-7333
(株)エーヴィーエックス	150-0036	東京都渋谷区南平台町15-10 MAC渋谷ビル8F	03-3462-1991
ダイナソア(株)	630-8452	奈良県奈良市北之庄西町2-8-15	0742-64-3555
バイクシステム	920-0277	石川県河北郡内灘町千鳥台2-371	076-239-4884

2001 ロード・トラック・ランキング(6月現在)

[ロードレース]

男子エリート・ロードレース

E	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	橋川 健	JPCA	E	P	3,159.8
2	坂口 博	愛知	E		2,580.5
3	鈴木 真理	JPCA	E	P	2,536.3
4	狩野 智也	JPCA	E	P	2,400.0
5	田中 光輝	愛知	E	m	2,132.3
6	三浦 恭資	JPCA	E	P	2,038.8
7	田代 恭崇	JPCA	E	P	1,835.5
8	鈴木 新史	JPCA	E	P	1,800.4
9	新保 光起	JPCA	E	P	1,744.8
10	岡崎 和也	JPCA	E	P	1,488.5
11	今西 尚志	京都	E	m	1,488.3
12	柿沼 章	栃木	E		1,281.8
13	山本 雅道	神奈川	E		1,246.3
14	広瀬 敏	石川	E		1,230.4
15	渋谷 淳一	JPCA	E	P	1,001.5
16	山本 泰裕	大阪	E		953.5
17	宮澤 崇史	長野	E		823.7
18	中川 康二郎	茨城	E	m	801.8
19	行成 秀人	香川	E		801.4
20	飯島 規之	JPCA	E	P	800.0
21	福島 晋一	JPCA	E	P	760.0
22	阿部 良之	JPCA	E	P	748.2
23	西村 拓也	京都	E		701.1
24	大内 薫	大阪	E		687.0
25	流郷 克哉	群馬	E	m	608.7
26	大塚 英伸	JPCA	E	P	600.0
27	飯島 誠	JPCA	E	P	597.6
28	福島 康司	埼玉	E		554.0
29	寛 五郎	長野	E		502.0
30	長野 耕治	愛媛	E		496.0
31	鈴木 雷太	長野	E	P	444.0
32	日置 大介	兵庫	E		434.0
33	三船 雅彦	JPCA	E	P	432.0
34	飯田 義広	JPCA	E	P	400.0
35	ライノ ヲト	北海道	E		388.8
36	小嶋 洋介	京都	E		384.0
37	中山 大介	茨城	E		372.5
38	渡辺 忠義	三重	E		366.6
39	ピエトロ フガク	大阪	E	m	350.5
40	樺沢 康輝	JPCA	E	P	320.0
41	秋田 謙	愛知	E		303.6
42	久保田 誠	東京	E	m	288.6
43	矢澤 真幸	京都	E		272.0
44	森 正和	静岡	E		261.7
45	穂刈 優毅	新潟	E		261.0
46	村山 利男	東京	E	m	260.5
47	宇田川 聡仁	静岡	E	P	234.0
48	中里 聡史	埼玉	E		232.0
49	高梨 真幸人	東京	E		227.0
50	真鍋 和幸	JPCA	E	P	220.0

男子U23・ロードレース

U	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	大塚 潤	静岡	U		1,706.8
2	辻 貴光	京都	U		1,199.3
3	別府 匠	神奈川	U		1,133.8
4	綾部 勇成	神奈川	U		1,071.3
5	佐藤 朋也	秋田	U		836.5
6	圓谷 崇	福島	U		750.8
7	岩本 竜太郎	広島	U		738.9
8	上田 誠	奈良	U		691.8
9	後藤 正志	岐阜	U		652.0
10	加藤 康則	埼玉	U		526.0
11	櫻川 裕之	千葉	U		518.8
12	平井 信昭	兵庫	U		510.6
13	飯田 輝男	茨城	U		477.3
14	宮川 拓也	滋賀	U		430.6

U	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
15	清水 裕輔	埼玉	U		372.5
16	山本 敬純	大阪	U		363.6
17	清水 実	山梨	U		360.0
18	橋本 健	東京	U		357.0
19	小嶋 健	神奈川	U		348.1
20	宮崎 景涼	神奈川	U		340.0
21	真栄里 誠	沖縄	U		321.4
22	西谷 泰治	広島	U		313.0
23	出井 光一	千葉	U		311.5
24	郡山 善貴	岐阜	U		300.0
25	稲田 佳弘	愛知	U		294.4
26	津末 浩平	愛知	U		254.6
27	渡邊 哲平	大分	U		244.8
28	森 誠二	山形	U		243.9
29	小笠原 豪	青森	U		236.8
30	三浦 勇一	京都	U		224.0

男子ジュニア・ロードレース

J	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	別府 史之	神奈川	J		1,162.0
2	土井 雪広	山形	J		871.5
3	池田 文志	奈良	J		752.5
4	親川 泰典	岩手	J		568.5
5	櫻井 透	神奈川	J		516.7
6	高島 豪	埼玉	J		515.0
7	小林 彰夫	福島	J		508.5
8	糸賀 賢司	福島	J		428.0
9	柏原 剛	京都	J		314.0
10	松原 稔明	奈良	J		308.4
11	小椋 康寛	岐阜	J		295.0
12	中村 誠	石川	J	s	290.5
13	安里 勝徳	石川	J		280.0
14	今井 卓	埼玉	J		246.0
15	三瀧 光誠	山形	J		240.0
16	谷垣 雄基	京都	J		237.0
17	辻 善光	京都	J		225.0
18	松下 善紀	広島	J		219.0
19	向川 訓司	大阪	J		185.0
20	高森 旭二	神奈川	J		180.0
21	西牧 仁	福島	J		173.1
22	立里 匡道	山形	J	u	170.0
23	小倉 知幸	福島	J		157.5
24	森 隆司	香川	J		148.0
25	田中 雄大	島根	J		139.0
26	大野 涼太	青森	J		135.0
27	今野 秀徳	山形	J		134.8
28	白浜 慶一	山形	J		124.0
29	佐野 真義	大阪	J		121.0
30	鷲田 佳史	福井	J		120.0

女子・ロードレース

F	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	沖 美穂	山梨	E		1,670.0
2	杉村 久美	岩手	E		1,380.0
3	松永 舞美	香川	J		1,154.0
4	村中 恵美子	東京	E		1,142.0
5	小野山 恵美	愛媛	E		1,097.0
6	中村 珠藻	奈良	U		1,040.0
7	前川 康子	奈良	J		944.0
8	大塚 恵美	大分	U		900.0
9	木村 春恵	青森	U		855.0
10	福森 智子	三重	E		802.5
11	森本 朱美	三鳥	E		750.0
12	塩原 桂子	東京	E		713.0
13	横尾 裕子	山形	J		636.0
14	谷村 祐美子	奈良	J		586.0
15	南部 博子	長野	E		550.0
16	大塚 歩	栃木	E		500.0
17	唐見 実世子	石川	E		420.0
18	小高 セツコ	埼玉	E		417.5
19	斎藤 綾	秋田	U		410.0
20	藤野 むつみ	東京	E		402.0
21	西 加奈子	千葉	E		400.0

U	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
22	舟橋 豊子	東京	E		385.0
23	小谷 翠	愛知	E		350.0
24	小栗 美樹	岐阜	E		346.6
25	小野 翔子	栃木	J		340.0
26	仁藤 ひとみ	福井	E		302.4
27	高橋 いづみ	東京	E		300.0
27	福井 万裕美	静岡	U		300.0
29	野坂 尚由	愛知	U		260.0
30	川戸 はづき	東京	U		257.6

[トラックレース]

男子エリート・タイムトライアル

TT	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	大森 慶一	北海道	U		1,840.0
2	篠原 忍	群馬	U		1,196.0
3	岡本 大嗣	愛媛	U		1,172.0
4	伏見 俊昭	JPCA	E	P	840.0
5	荒井 崇博	JPCA	E	P	672.0
6	濱田 浩司	JPCA	E	P	546.0
7	村上 義弘	JPCA	E	P	420.0
8	田中 弘章	JPCA	E	P	319.2
9	竹沢 浩司	富山	U		311.2
10	前田 吉昭	石川	U		277.6

男子エリート・スプリント

SP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	布居 寛幸	JPCA	E	P	1,546.0
2	植木 和広	神奈川	U		1,302.0
3	湯原 正行	長野	E		1,196.0
4	金子 貴志	JPCA	E	P	840.0
5	三宅 裕武	三重	U		800.0
6	渡邊 晴智	JPCA	E	P	672.0
7	小川 圭二	JPCA	E	P	420.0
8	塩原 正長	広島	E	m	319.2
9	小野 旭裕	兵庫	U		300.8
10	榎山 新太郎	福岡	U		269.2

男子エリート・個人追抜競走

IP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	黒木 裕介	愛媛	U		1,840.0
2	坂口 博	愛知	E		1,672.0
3	伊藤 太一	山梨	U		1,326.0
4	飯島 規之	JPCA	E	P	840.0
5	鳥生 知八	JPCA	E	P	672.0
6	諸橋 愛	JPCA	E	P	546.0
7	吉井 功治	東京	E	m	420.0
8	盛 一大	茨城	U		319.2
9	吉野 鉄平	広島	U		269.2
10	宮川 拓也	滋賀	U		200.0

男子エリート・ポイントレース

PR	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	吉井 功治	東京	E	m	1,472.0
2	坂口 博	愛知	E		1,340.0
3	福島 晋一	JPCA	E	P	1,000.0
4	大塚 英伸	JPCA	E	P	926.0
5	齋藤 勝	JPCA	E	P	672.0
6	狩野 智也	JPCA	E	P	650.0
7	西谷 泰治	広島	U		576.0
8	鈴木 涼平	宮城	U		435.2
9	飯島 規之	JPCA	E	P	420.0
10	鬼形 博之	群馬	E		389.2

男子エリート・ケイリン

KE	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	吉田 康則	岡山	E	m	1,672.0
2	塩原 正長	山梨	E	m	1,346.0
3	小野 旭裕	兵庫	U		1,040.0
4	植崎 雅也	福島	U		856.0
5	松本 陽介	群馬	U		668.0
6	石丸 健次	千葉	E	m	515.2
7	百々 敦史	三重	E		319.2
8	前川 亮	大分	U		200.0
8	松村 友和	大阪	U		200.0
10	北野 大地	岐阜	U		160.0
10	平岩 寿郎	京都	U		160.0

男子プロ・ケイリン

KE	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	内林 久徳	JPCA	E	P	1,490.0
2	市田佳寿浩	JPCA	E	P	672.0
3	西川 親幸	JPCA	E	P	319.2
4	會田 正一	JPCA	E	P	235.2
5	池尻 浩一	JPCA	E	P	168.0
6	一丸 安貴	JPCA	E	P	126.0
7	伊藤 保文	JPCA	E	P	117.6

男子ジュニア・個人追抜競走

IP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	白井 昌巨	岐阜	J		740.0
2	明珍 周兵	福島	J		556.0
3	高島 豪	埼玉	J		517.0
4	小岩 大介	大分	J		250.0
5	佐藤 友和	大分	J	s	235.2
6	糸賀 賢司	福島	J		190.0
7	緒方 剛	埼玉	J		166.2
8	柏原 剛	京都	J		140.0
9	池田 丈志	奈良	J		120.0
10	小倉 知幸	福島	J		100.0

女子・スプリント

SP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	遠藤 友子	大分	J		1,972.0
2	太刀川麻也	茨城	U		1,840.0
3	中尾 友美	奈良	U		1,596.0
4	大森 恵	北海道	J		1,245.0
5	篠崎 新純	千葉	J		719.2
6	藤原亜衣里	新潟	U		395.2
7	野坂 尚由	愛知	U		360.0
8	稲岡 智子	大阪	E		160.0
9	遠山 恵	岩手	U		130.0

男子ジュニア・タイムトライアル

TT	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	永井 清史	岐阜	J		1,040.0
2	西村 行貴	熊本	J		937.0
3	井上 雄三	埼玉	J	s	500.0
4	今泉 薫	群馬	J		465.4
5	白井 昌巨	岐阜	J		400.0
6	田中 幹雄	石川	J		276.6
7	中田 博之	富山	J		250.0
8	福田 正人	埼玉	J		221.0
9	甲斐 康昭	群馬	J		190.0
10	須藤 雄太	千葉	J		140.0

男子ジュニア・ポイントレース

PR	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	高島 豪	埼玉	J		920.0
2	片山 智晴	岡山	J		481.0
3	池田 文志	奈良	J		400.0
4	土井 雪広	山形	J		388.0
5	鷲田 佳史	福井	J		250.0
6	親川 泰典	岩手	J		240.0
7	廣瀬 勝光	群馬	J		192.0
8	柴田 祐也	岐阜	J		190.0
9	望月 純	静岡	J		166.2
10	林 信祐	青森	J		140.0

女子・個人追抜競走

IP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	木村 春恵	青森	U		1,840.0
2	斎藤 綾	秋田	U		1,522.0
3	杉村 久美	岩手	E		1,220.0
4	中村 珠藻	奈良	U		1,176.0
5	松永 舞美	香川	J		740.0
6	村中恵美子	東京	E		519.2
7	横尾 裕子	山形	J		481.0
8	谷村祐美子	奈良	J		467.2
9	玉城 さち	沖縄	J		442.0
10	高嶋美咲紀	鳥取	J		335.2

男子ジュニア・スプリント

SP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	永井 清史	岐阜	J		1,300.0
2	石橋慎太郎	静岡	J	s	1,165.0
3	青木 亮太	群馬	J		568.0
4	斎藤 友幸	静岡	J		430.0
5	屋良 朝春	沖縄	J		400.0
6	小田倉勇二	栃木	J		156.0
7	須藤 雄太	千葉	J		140.0
8	前田 義和	鹿児島	J		137.2
9	中山 健	新潟	J		120.0
10	古川 喬	福島	J		100.0

女子・タイムトライアル

TT	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	篠崎 新純	千葉	J		1,887.0
2	太刀川麻也	茨城	U		1,840.0
3	中尾 友美	奈良	U		1,746.0
4	大森 恵	北海道	J		1,012.0
5	遠藤 友子	大分	J		975.2
6	大塚 恵美	大分	U		555.2
7	野坂 尚由	愛知	U		456.0
8	高嶋美咲紀	鳥取	J		318.4
9	横尾 裕子	山形	J		278.8
10	落合麻衣子	宮城	J		208.8

女子・ポイントレース

PR	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	松永 舞美	香川	J		1,500.0
2	森本 朱美	鳥取	E		1,322.0
3	杉村 久美	岩手	E		1,119.2
4	斎藤 綾	秋田	U		1,046.0
5	木村 春恵	青森	U		840.0
6	藤原亜衣里	新潟	U		800.0
7	大塚 恵美	大分	U		568.0
8	中村 珠藻	奈良	U		515.2
9	谷村祐美子	奈良	J		400.0
10	前川 康子	奈良	J		325.0

.....
 : エリート: E(プロ:EP, マスター:Em) アンダー23: U、ジュニア: J(15才:Ju, 18才で1~3月生:Js) :

対象大会: 6月末日まで

Prominence プロミネンス・ロードフレーム



レースで培った安定した走行感とライダーとの一体感。ナカガワのフルオーダーフレーム。

プロミネンス(完成車250,000円-税別)

一般ロードレース用
標準小売価格145,000円-(税別)

プロミネンスオーバーサイズ
ロードレース用オーバーサイズ仕様
標準小売価格160,000円-(税別)

プロミネンスSL
軽量モデル
標準小売価格163,000円-(税別)

プロミネンスMAX
コロンブスMAXで最高のフレーム
標準小売価格195,000円-(税別)

セミオーダーシステム
スタンダードモデル(10mm刻み)
標準小売価格100,000円-(税別)

その他、シクロクロス・MTB・トラック・ツーリングもオーダー承ります。

自転車競技者の新しいサプリメント

アタック革命



運動する事によって消費される分岐鎖アミノ酸を素早く補給! アタックをかけた時、充分発揮できるよう設計された自転車競技者のためのサプリメント。 240錠・5,500円

nakagawa
www.nakagawa-cw.co.jp

有限会社 ナカガワサイクルワークス

〒572-0075 大阪府寝屋川市葛原 2-14-34
TEL: 072-829-5431 FAX: 072-829-5524

e-mail: nakagawa-cw@jin.ne.jp

2001年B世界選手権大会(中国・秦皇島)

岡崎がロードTTチャンピオンに!



チャンピオンジャージを着る岡崎

個人タイムトライアル 2001.6.22

19カ国、総勢46名が参加、8.85kmを2往復する海岸沿いの平坦なコース。海から吹く強い風はスタートから追い風で、帰りが向かい風になるため、ペース配分が勝敗の鍵となる。

2組に分かれての組み合わせは、岡崎1組目の23人中20番目のスタートと不利なスタート順となった。

昨年のアジア選手権の経験を参考に、ペース配分を考えスタート。前半少し押さえ気味に走るが、向かい風では時速40km/h以上で走る。1周目は中国の選手に10秒の差を付けられ、ラスト8kmでは15秒差となるが、前半押さえて走った分ラスト5kmで中国の選手を逆転し21秒差を付け1組の1位で通過。

2組目の走者が岡崎のタイムを目標に次々とスタートする。2組の後半まで全く危なげなく過ぎたが、22番走者のWANG(中国)が前半から岡崎のタイムを上回る力走で岡崎の優勝が危ぶまれたが、WANGの力走もラスト4キロまで。徐々にペースが落ちだし、ラスト2キロで岡崎のタイムを上回ることが出来ず、岡崎の優勝が確定、B世界選手権大会優勝の証しとしてブルーのチャンピオンジャージに袖を通した。

個人ロードレース 2001.6.23

(16.5km×11周=181.5km)

18カ国、総勢68名の選手が出場、起伏の少ない周回コースで行われた。

前日の個人タイムトライアル優勝で、勢いのついた日本チームは個人ロードも優勝を狙いスタート。

スタート直後からアタックが始まり初回から速いレース展開となる、集団から数名の選手が抜け出し集団を引き離す。

2周目ピット前を通過、狩野を含む7名の選手が40秒差で逃げる。狩野は、メ

イン集団からチームメイトが抜け出して来るのを待つが、メイン集団からのアタックが思うように決まらない。

5周回目、メイン集団が2つに分かれ、第2集団に鈴木、岡田を含む10数名の選手が逃げの態勢となりトップ集団を追う

が、トップ集団との差は開く一方。9周目に入り4名となったトップ集団は3分差で第2集団を引き離す。

完全に逃げ切り態勢に入ったトップ集団は10周目に入り、狩野、TANG(中国)、J.ULZIK(モンゴル)の3名となる。

全く前になくなったTANGを引き離そうと、狩野が登りでアタックしたが振り切ることが出来ず、優勝争いはゴールスプリントに持ち越された。力を温存していたTANG、ゴール前100mから先行し、そのまま先着ゴールで優勝。2位にJ.ULZIK(モンゴル)が入り、狩野は残念ながら3位でゴール。

第2集団でゴールした鈴木5位、岡崎11位、岡田16位、第3集団でゴールした田中29位。

広瀬は、4周目、前方で落車した選手に乗り上げ、残念ながら落車事故によるリタイアで終わった。

今大会のB世界選手権は普段聞きなれない国々が参加し有意義な大会であったが、選手の目標となるものが無く残念であった。(監督 高橋 松吉)

[競技結果]

男子ロードタイムトライアル(35.4km)

1 岡崎 和也	JPN	40:02.889
2 WANG, GUOZHANG	CHN	40:24.134
3 SHI, GUIJUN	CHN	40:24.239

競技大会
結果

チーム名等については略して記載

2001JCFジャパンシリーズ J1 DH#1
(6/2-3 長野・富士見パノラマ)

DH Elite Men (4.8km)

1 内嶋 亮	東京 A&F SANTA	6:32.92
2 丸山 弘起	長野 TEAM SCOTT	6:38.26
3 安達 靖	大阪 Team TMX	6:39.07
4 塚本 岳	埼玉 MX, MONGOOSE	6:40.87
5 竹本 将史	埼玉 プリザン	6:42.70
6 加納慎一郎	山梨 Team GT J.	6:43.44
7 金子 大作	北海 Global Racing	6:43.84
8 高橋 唯之	福島 MX/SPEED	6:45.04
9 大島 礼治	兵庫 GIANT JPN	6:45.29
10 河合 良紀	三重 カトリック	6:46.97

DH Elite Women (4.8km)

1 末政 実緒	兵庫 Team GT J.	7:15.26
2 渡辺キャリー	長野 CHUMBA W.	7:23.42
3 増田 まみ	埼玉 MX, HARO	7:24.22
4 池田 恭子	東京 FunFancy/H.	7:28.80
5 鴨下 美穂	神奈 DD BIKES	7:49.49
6 戸崎 麻紀	岐阜 DD BIKES	7:53.74
7 杉山 美佐	静岡 DD BIKES	8:02.09
8 久保 行子	東京	8:06.02
9 大門三津子	兵庫 丸アトレシグ	8:13.48
10 福本 弘佳	兵庫 Ringo Road	8:19.75

男子ロードレース(181.5km)

1 TANG, XUEZHONG	CHN	4:22:18
2 J.ULZII ORSHIKH	MGL	4:22:18
3 狩野 智也	JPN	4:22:18
5 鈴木 真理	JPN	4:27:05
11 岡崎 和也	JPN	4:27:21
16 岡田 哲也	JPN	4:27:47
29 田中 光輝	JPN	4:31:41
広瀬 敏	JPN	DNF

KEIRIN
競輪補助事業



第35回西日本実業団サイクルロードレース
(6/3 広島・中央森林公園)

BR-1 (110.7km)

- 1 鈴木 新史 愛三工業レーシング 2:52:23.81
- 2 岡崎 和也 村ノ丸 2:52:23.94
- 3 新保 光起 愛三工業レーシング 2:52:24.41
- 4 今西 尚志 シルレーシング 2:52:24.48
- 5 三浦 恭資 村ノ丸 2:52:25.15
- 6 西村 拓也 カガワFET 2:52:26.70
- 7 寛 五郎 Testach-Racing 2:52:27.93
- 8 ビンセントワガシ カガワFET 2:52:30.07
- 9 田中 光輝 愛三工業レーシング 2:52:40.04
- 10 山本 泰裕 シルレーシング 2:53:04.22

BR-2 (61.5km)

- 1 宇田川聡仁 Testach-Racing 1:37:19.40
- 2 野口 忍 村ノ丸 1:37:19.95
- 3 南條 太郎 ミナガハあさひ 1:37:21.12
- 4 入江 克典 シノノケ 1:37:21.37
- 5 辻 俊行 村ノ丸 1:37:21.40
- 6 真栄里 誠 三州観光クラブ 1:37:21.63
- 7 井上 晴雄 サイクルクラブ FET 1:37:21.88
- 8 スティーブガフィン スズカバ 1:37:21.92
- 9 中堀 清治 CLUB ANGLE 1:37:22.10
- 10 山崎 範行 チーム岡山 1:37:22.49

BR-3 (36.9km)

- 1 井上 和郎 BALBA RACING 58:41.32
- 2 武内 誠 BREZZA 58:49.53
- 3 池本 真也 Testach-Racing 58:50.02
- 4 宮原 淳 PCサイクルクラブ 松本 58:51.17
- 5 小笠原崇裕 Testach-Racing 58:51.65
- 6 鳴川将一郎 カガワFET 58:51.67
- 7 宮本 修一 Team DADDY 58:51.95
- 8 梶木 恒介 本町堺グレイブ 58:52.80
- 9 森本真二郎 CLUB ANGLE 58:52.85
- 10 宗政 昭弘 チームチェン 58:53.59

女子ロード (61.5km)

- 1 小野山恵美 イキップユニオンレーシング 1:49:35.38
- 2 福森 智子 カガワFET 2:01:32.18

女子オープン (36.9km)

- 1 小谷 翠 岩井商会 1:12:10.42
- 2 山口真喜子 BALBA RACING 1:13:28.20
- 3 山口麻理子 1:13:41.73
- 4 佐々木美恵 1:18:29.67
- 5 窪堀 名恵 GS.NOKO 1:19:52.35
- 6 木村 清香 NCFR 1:20:07.08
- 7 小栗 美樹 Team DADDY 1:21:20.02
- 8 梶原 加名 VELOCISTA 1:24:42.54

つがいサイクル2001 (6/10 長野・梅池高原)
(17.1 Km)

- 1 西村 拓也 京都 カガワFET 52:16.1
- 2 鈴木 雷太 長野 Testach-R. 52:16.2
- 3 櫻川 裕之 千葉 セルレーシング 53:08.2
- 4 村山 利男 東京 Vitesse 53:13.1
- 5 ビンセントワガシ 大阪 カガワFET 53:57.4
- 6 穂刈 優毅 新潟 CLUB ANGLE 54:00.5
- 7 高梨真幸人 東京 Vitesse 54:14.5
- 8 田中雄一郎 神奈川 日本舗道R. 54:48.9
- 9 井上 和郎 福井 BALBA R. 55:08.9
- 10 江本 泰輔 東京 レー/A&Tヤマダ 55:10.8

2001 JCF ジャパンシクリズ J1 XC#4 DH#2
(6/15-17 北海道・小樽天狗山スキー場)

XC Elite Men (36km)

- 1 山口 孝徳 長野 TEAM CWS 1:49:11.34
- 2 鈴木 雷太 長野 ブリヂストン 1:49:47.40
- 3 竹谷 賢二 千葉 SPECIALIZED 1:50:43.83
- 4 宇田川聡仁 長野 ブリヂストン 1:50:50.08
- 5 色川 浩樹 福島 GIANT J. 1:51:12.99
- 6 戸津井俊介 埼玉 スポット 1:51:54.64
- 7 栄田 富夫 長野 SCOTT P. 1:54:13.81
- 8 西田 和弥 長野 TEAM A&F 1:54:14.40
- 9 菅間 圭介 宮城 Team 奥州 1:55:37.11
- 10 深谷 幸彦 愛知 NEWS-NCFR 1:56:35.96

XC Elite Women (24km)

- 1 南部 博子 長野 TREK JPN 1:24:47.03
- 2 田中 裕子 長野 BRIKO 1:34:50.86
- 3 松本こずえ 宮城 SCOTT/S. 1:39:38.26
- 4 下田 邦子 福岡 Q-MAX.ACE -2LAP
- 5 井上 麻衣 福岡 A.B.Club Out -2LAP

DH Elite Men (1.35km)

- 1 内嶋 亮 東京 A&F SANTA. 2:20.50
- 2 安達 靖 大阪 Team TMX 2:23.08
- 3 鍋島 健一 福岡 ブリヂストン 2:24.60
- 4 和田 良平 東京 Team Cristal 2:24.83
- 5 丸山 弘起 長野 TEAM SCOTT 2:24.99
- 6 岩瀬 信彦 神奈川 Team GT J. 2:25.71
- 7 坂口 静佳 静岡 チームスポット 2:25.85
- 8 加納慎一郎 山梨 Team GT J. 2:26.17
- 9 向原 健司 大阪 KUWAHAR 2:26.53
- 10 高松 健二 兵庫 SCHWINN 2:26.67

DH Elite Women (1.35km)

- 1 末政 実緒 兵庫 Team GT J. 2:40.17
- 2 渡辺キャリー 長野 CHUMBA W. 2:43.95
- 3 猪俣 浩子 神奈川 FOES CREDIT 2:44.10
- 4 池田 恭子 東京 FunFancy/H. 2:54.73
- 5 藤中 治子 京都 クワックワックワ 2:57.55
- 6 戸崎 麻紀 岐阜 DD BIKES 3:20.80
- 7 福本 弘佳 兵庫 Ringo Road 3:10.78
- 8 寿 弥生 岩手 EXTREME 3:20.28

群馬クラブ (6/17 群馬CSC)

実業団BR-1 (102km)

- 1 坂口 博 愛知 愛三工業 2:26:58.84
- 2 三浦 恭資 JPCA 村ノ丸 2:26:58.92
- 3 ヴィノブワッドリ 北海道 チームチェン 2:26:59.11
- 4 山本 雅道 神奈川 シルレーシング 2:26:59.11
- 5 渋谷 淳一 JPCA ブリヂストン 2:26:59.45
- 6 中川康二郎 茨城 バイクシステム 2:26:59.63
- 7 柿沼 章 栃木 村ノ丸 2:27:01.35
- 8 新保 光起 JPCA 愛三工業 2:27:07.16
- 9 中山 大介 茨城 ミヤタ 2:27:35.26
- 10 三船 雅彦 京都 CLUB ANGLE 2:29:03.98

実業団BR-2 (72km)

- 1 佐藤 力道 東京 イキップカバ 1:50:29.12
- 2 石田 哲也 愛知 日本舗道 1:50:29.68
- 3 梶 博 静岡 チームワザ 1:50:29.86
- 4 菅 洋介 東京 リンダビキ 1:50:29.96
- 5 吉井 功治 東京 IVY-CLUB 1:50:30.10
- 6 大鹿 真治 千葉 Blanche 1:50:30.16
- 7 中田 真琴 北海道 GS.NOKO 1:50:30.28
- 8 島沢由紀夫 静岡 シノノケ 1:50:30.48
- 9 ガーニースティーブ CAN スズカバ 1:50:30.53
- 10 五島 則夫 神奈川 チームワザ 1:50:30.68

実業団BR-3 (30km)

- 1 塩貝 哲夫 兵庫 カガワFET 44:30.14
- 2 鬼形 博之 HARP. RC 44:30.64

- 3 原 敏将 神奈川 たかだフルド 44:30.98
- 4 山崎 卓己 静岡 SPADE ACE 44:31.04
- 5 田中 良忠 東京 スズカバ 和 P. 44:31.09
- 6 宮村 優 石川 トビモト 44:31.12
- 7 高橋 文裕 岩手 いわてのオアシス 44:31.15
- 8 宮本 修一 岐阜 DADDY 44:31.19
- 9 立石 礼正 栃木 シノノケ 44:31.42
- 10 鍋谷 治 東京 イキップカバ 44:31.45

男子ジュニア (60km)

- 1 天沼 雅貴 北海道 尚志学園 1:39:29.74
- 2 金山慎一郎 千葉 千葉経大附 1:39:30.15
- 3 畑中 勇介 東京 昭和第一学園 1:39:30.74
- 4 渡辺 将大 群馬 前橋育英
- 5 宮本 学 千葉 京葉工高 1:42:02.74
- 6 外處 祐司 群馬 前橋育英 1:42:03.23

女子 (30km)

- 1 杉村 久美 岩手 スズカバ 和 P. 52:07.81
- 2 伊与田尚加 静岡 シノノケ 52:07.87
- 3 林 佐知子 東京 千葉医療福祉 52:08.05
- 4 村中恵美子 東京 千葉医療福祉 52:08.64
- 5 仁藤ひとみ 福井 スカレレーシング 54:52.66
- 6 塩原 桂子 東京 邦パズ 57:38.71
- 7 藤野むつみ 東京 VOLCA 57:38.81
- 8 小栗 美樹 岐阜 DADDY 58:20.15
- 9 舟橋 豊子 東京 VOLCA 1:02:38.90

第40回全日本学生選手権自転車ロードレース

(6/23 秋田・大湯村ソーラーズロードレース)

チームタイムトライアル (93.768km)

- 1 日本大学 2:06:38.714
- 2 立命館大学 2:08:27.585
- 3 京都産業大学 2:09:49.009
- 4 京都大学 2:10:10.960
- 5 法政大学 2:11:53.318
- 6 関西大学 2:13:38.633
- 7 中央大学 2:13:44.607
- 8 東海大学 2:13:54.057
- 9 立教大学 2:14:56.575
- 10 信州大学 2:15:38.833

2001全日本学生個人ロードタイムトライアル

(6/24 秋田・大湯村ソーラーズロードレース)

女子 (15km)

- 1 中村 珠藻 順天堂大学 23:05.774
- 2 斉藤 綾 順天堂大学 23:07.888
- 3 許斐真由子 鹿屋体育大学 23:47.373
- 4 兼子 明子 鹿屋体育大学 25:08.859
- 5 横田 景子 早稲田大学 25:24.809
- 6 川添 綾子 関西大学 26:05.653
- 7 遠山 恵 順天堂大学 26:08.318
- 8 福岡 智子 摂南大学 27:37.945

男子 (31.256km)

- 1 清水 都貴 鹿屋体育大学 41:47.764
- 2 黒木 裕介 法政大学 43:11.708
- 3 普久原 奨 日本大学 43:53.528
- 4 盛 一大 日本大学 44:05.956
- 5 圓谷 崇 日本大学 44:34.517
- 6 伊藤 太一 日本大学 44:38.435
- 7 小笠原 豪 日本大学 44:40.694
- 8 清水 実 日本大学 44:40.719
- 9 堀川 大地 法政大学 44:42.791
- 10 小嶋 洋介 京都大学 44:46.734



岡本副会長 IOCオリンピック功労賞を受賞

IOX(国際オリンピック委員会)よりオリンピックムーブメントの貢献者に贈られる賞として、日本より本連盟・岡本副会長(JOC監事)を含む5名が「IOCオリンピック功労賞」を受賞した。なお、6月24日(日)東京・渋谷のNHKホールで行われたオリンピックデー記念式典で授与式が行われた。



全日本実業団自転車競技連盟からのお知らせ
実業団連盟創立35周年記念の全日本実業団選手権の日程は次の通りです。

トラックレース

8月31日～9月1日 石川県内灘自転車競技場

ロードレース

9月2日 石川県立森林公園周辺特設コース(1周6.8km)

詳しくは実業団連盟へお問い合わせください。

TEL: 03-3588-1755

CSC 30th Anniversary マスターズ自転車競技大会のお知らせ

9月15・16日の両日、静岡県のサイクルスポーツセンター333mバンクで「第3回サイクルカーニバル in 静岡」が行われます。2001年12月31日現在で満30歳以上の男女が対象で、主催は日本CSCと静岡車連。

詳しくはサイクルカーニバル実行委員会事務局へお問い合わせください。TEL: 0543-51-1148 FAX: 0543-54-0871

連盟の動き (6月上旬～下旬)

- 6月 4日 平成12年度事業の公認会計士監査(~6日)
- 5日 シクリズムエコー編集会議
- 8日 第2回常務理事会・選手選考委員会 於:北海道・大滝村
- 12日 第1回国際委員会
- 14日 平成12年度事業の監事監査
第1回強化委員会
- 17日 世界選B日本代表選手団出発(帰国 6/24) 於:中国・秦皇島
- 18日 第1回総務委員会
- 20日 第1回普及委員会
- 21日 第2回理事会
- 25日 トラックワールドカップ第3戦日本代表選手団出発(帰国 7/3) 於:イタリア・ポルデノーネ
- 28日 アジア選手権トラック代表選手強化合宿(~7/1) 於:前橋グリーンドーム
アジア選手権ロード代表選手強化合宿(~7/5) 於:千葉県鴨川市周辺
- 29日 第1回評議員会

編集後記

この春より国内の政権が変わり、「構造改革」という言葉がもてはやされております。閉塞感を強く感じる現在の国内情勢において、この「改革」という言葉は確かにある種の期待感を抱かせます。しかしながら本来「構造」とはそのときの状況によって常に変化させていくべきものであって、今まで「ほったらかし」にしていたものを大きく変えてみようとするならば、それは多大なる痛みを覚悟するというところに他ありません。これはスポーツ界でも同じことでしょう。

「小泉効果」に影響されたという先日の東京都議選ですが、投票率は前回より10ポイント近く増えたとはいえ、それは前回があまりにも低かっただけでわずかに50%あまりでした。日本ほど選挙に無関心な国は無いと言われますが、実に半数近くの人が棄権です。関心を装いながらも自らの権利、義務は放棄してしまう。その一方で不満や要求は多い、というのが現在の風潮のようです。

現在JCFホームページは仮の状態ですが、以前のホームページ中掲示板のコーナーでは、興味深い意見を多数読ませていただきました。関心を持っていただけるのは非常にありがたいことですが、できるならば今度は指導者資格や審判資格を取って現場に参加して、多に活躍していただきたいと考えます。政治の現場はなかなか参加することが難しいですが、スポーツの現場はそれほどではありません。そして新たな熱意ある人材が積極的に現場に参加できるように、スポーツ団体の「構造改革」を進めていかねばならないでしょう。

シクリズムエコーの発行業務が普及委員会から広報委員会に移管され、新たに広報委員として本紙編集に携わることになりました。今任期の間も前任期同様よろしく願いいたします。新装JCFホームページもまもなく立ち上げることができると思います。皆様のご意見お待ちしております。

(村田隆宣)



シクリズムエコー No.78 2001年7月号

発行/財団法人 日本自転車競技連盟

発行人/岩 楯 昭 一

編集人/村 田 統 司

編集事務局/財団法人 日本自転車競技連盟 事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15 日本自転車会館内

TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508

URL <http://www.jcf.or.jp/>